

VANCOUVER Shinpo

WEEKLY NEWS & ENTERTAINMENT

MAY 19 **バンクーバー新報**
 2005 **PART2** joho@vshinpo.com
www.v-shinpo.com

あなたにぴったりの学校がきっと見つかる！
School Information

水族館がクラス・ルーム
 英語と共に学ぶ海洋生物学

この人にフォーカス
 アーティスト、羽田野まゆみさん

NewBusiness
 JAPASTYLE HOTDOG 田村 徳樹・美砂さん

CLASSIFIED _____

北の大地が
はじむ
甘味

メープルシロップ



この人に

Focus

アーティスト

羽田野まゆみさん

絵を始めたきっかけは何ですか？

昔から手先が器用だったので絵は習ってみたいと思っていました。リッチモンドで習い始めた時は(時間があるうちにやってみよう)という趣味の範疇でした。ただ、自分の気持ちの内側に創造的な仕事をしていきたい、という気持ちはずっとあったので、BC Festival of the Artに受賞したことをキッカケに本格的に絵に打ち込み始めました。

移民を決意された理由は？

日本ではTV等の仕事が入る間のアルバイトで暮らしを立てる日々の傍ら好きな語学を極めたいと英会話学校にも通っていました。役者の道を断念し、これから何が自分にあるのだろうと考えた時、とりあえず好きな英語をものにすれば、これから何の仕事を選んでもプラスになるだろうと思いました。初めて来たカナダ(バンクーバー)は、英語を学ぶには最適な環境だと思いましたし、日本に比べると歴史の新しい国、カナダで因習やしがらみに捕らわれることなく自分の実力を伸ばしてキャリアを積んで行けたらという気持ちもありました。

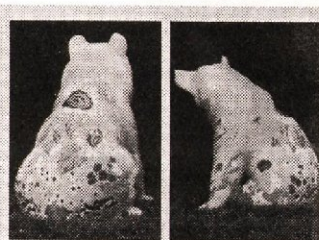
1996年にはケローナ芸術協会アーティストスケーププログラム』の発起人になりましたが、この会はどんな主旨のものでしたか？

絵の世界では経歴書にどのくらい公共の場でグループ展、個展に自作を発表してきたかを記すことが大切。これがキャ

リアに繋がってくるからです。そこで、地元アーティストに公共の場所で展示する機会を与える目的で新人アーティストの手助けをしてきました。

2001年にベアーズ・オン・パレードに作品を展示なさったそうですね。

このプログラムは世界各地で色々なモチーフをテーマに展開されていて、(バンクーバーではシャチ像等)指名を受けて、第1作目はケロウナのオーチャード・シヨッピング・モールがスポンサーでひまわりを、第2作目はモントリオールのジョン・フオーネル・ファンデーションが



彼女の作品
(ベアーズ・オン・パレード出品作品)
スポンサーで消防士の絵を、実物大の小熊を象ったフアイバーグラスに描きました。

2005年の愛知万博にアーティスト団団長として来訪なさいましたが、どんな経験をなさったのでしょうか？

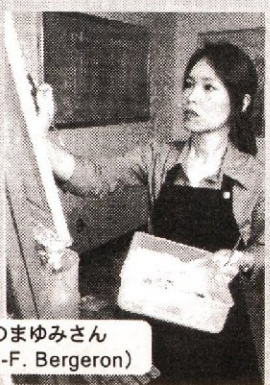
ケローナから64名の来訪団が生まれ、同市姉妹都市の愛知県春日井市も訪れました。4月4日には同団歓迎レセプションで自作『絆/Bond』を姉妹都市市民の会に贈呈してきました。春日井市の方々の心のこもったおもてなしに日本人の感性の細やかさを再確認しました。また、同市は書道縁の地でもあり、近作『いろは歌』を作成する際に意識したカナダでの自由さ、時間の流れに対し「古い日本の美を継承していく」という側面と結びついたような気がしました。在加15年以上経って、日本の良さを作品に反映させていきたいという気持ちが強くなってきました。

これからの活動についてお話し下さい。

油絵にも興味はありましたが、あまり手を広げすぎると本筋を極められなくなってしまうので、4、5年前から水彩画を加え

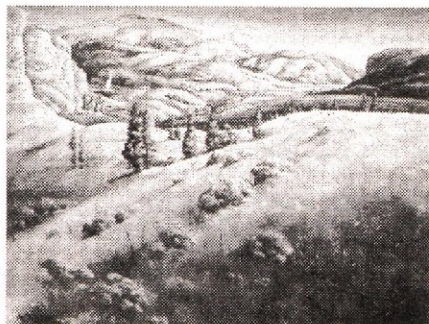
プロフィール

北海道出身。東京でテレビや舞台の勉強後、1986年、カナダエキスポに来訪したことをきっかけに翌年ワーキングホリデーでバンクーバー滞在。その後移民となり、1992年よりアクリル画を習いはじめる。翌年、初めての作品がBC Festival of the Artの地区大会選外佳作を受賞。その後も、1993年、1999年に同州展覧会の展示作品に選出される。2002年よりケロウナ市のRotary Centre for the Artsのレジデント・アーティストに選ばれ、同会館にスタジオを構え活躍中。



作品制作中のまゆみさん
(photo by J-F. Bergeron)

羽田野さんのホームページのアドレス
www.mhatano.com



アクリル絵の具による風景画 Vaseaux Lake

るまでずっとアクリル画一筋でやってきました。これからはテキスタイル等に見られるデザイン的な要素の濃い作品にも力を注いでいきたいですね。創造的な分野でプロとして活動したかった夢が叶って満足してはいますが、ある意味ではやっとスタートを切ったばかりという気もしています。仕事一途な時期も長いのですが、ふと1、2歩下がって視野を広げてみると、仕事以外でプライベートな時間の充実も同じく大切だと感じ始めました。まず、自分自身でいることが大切。そんな心の余裕が絵に反映されてくるのですよね。
(取材 北風かん)